

水産業強化支援事業事後評価報告書

			千葉県
政策目的		令和元年台風 15 号及び 19 号により被災した施設の現状復旧	
政策目標		経営構造改善目標	31-7
事業実施主体		富津漁業協同組合	
実施地区名		富津地区	
実施期間及び目標年度		実施期間	目標年度
		令和元年度～2 年度	令和 4 年度
交付金額		3, 031, 000 円	
事業計画の内容		漁具倉庫等（11 棟）の修繕	
評価	成果目標		水揚量を指標とし、計画時点の現状値である ■■■ トンに戻す。
		現状値	（令和 4 年度末時点）■■■ トン
		目標値	（令和 4 年度末）■■■ トン
	（1）現状値の説明		本漁業協同組合所属の組合員による水揚量を指標としたところ、目標値の ■■■ トンに対し、現状値は ■■■ トン（目標値の 46.7%）であり、目標達成には至らなかった。
	（2）地域への経済効果 （ハード事業のみ）		被災した共同利用施設が現状復旧したことにより、被災前と同様の漁業生産活動が可能となった。
	（3）所見		今回被災した施設はノリ養殖業、小型機船底びき網漁業、潜水器漁業等の漁業者が使用する漁具倉庫及び資材保管庫であるが、これらの共同利用施設は漁業生産の基盤となる施設であり、復旧によって漁業生産活動の再開が可能となった。 一方、ノリの不作、アサリやカレイ等の資源の低迷に加え、小型機船底びき網漁業の主要対象魚種であるスズキについても新型コロナウイルス感染症に伴う魚価の低迷が続いているため、価格調整及び資源管理のため出漁日数を減らしている状況となっている。さらに、組合員減少と高齢化が急激に進んだことにより出漁日数が減少し、漁獲量のさらなる減少に繋がっている。

	(４) 評価機関の意見等	
今後の改善方向等に関する分析	ノリ養殖の不作や貝類、底魚資源の低迷は東京湾全体に共通する課題であり、年々深刻化している。 水揚量の減少は、水温上昇に伴うノリ漁期の短縮やノリの食害原因となっているクロダイの増加、また、アサリやマコガレイ等の底生魚介類に影響する貧酸素水塊の発生など、環境に起因する部分も大きいと考えられる。 ノリ養殖については、平成 28 年度及び令和元年度に共同加工施設を整備し、生産性の向上を図っている。また、不作の原因となっている食害に対しては、防除ネットの設置等の対策を行っている。 漁船漁業については、限られた資源を有効に活用するため、資源管理計画に基づく休漁措置のほか、相場等の状況に応じて自主的な休漁措置を行っている。また、小型機船底びき網漁業については、内湾底びき網連絡協議会において休漁期間や禁漁区域の設定を行っているほか、組合員の自主的な取り組みとしてコウイカの産卵床設置を行っている。 潜水器漁業についても、ミルクイの資源増大のための種苗放流を実施しているほか、ナミガイ、マナマコの種苗放流試験や囲い網によるアサリ稚貝の越冬管理を実施している。 上記の取り組みは、厳しい状況において、水揚量の底支えに寄与していると考えられることから、今後も状況に応じて取り組みを継続することで、水揚状況の改善につながると考えられる。	